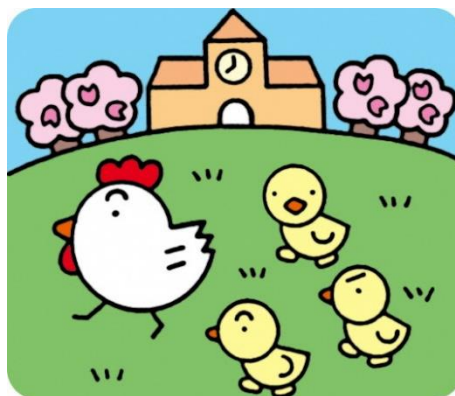


小児科だより vol.44

こどもの新型コロナウイルス感染症

2020.4.1 発行

こんにちは。暖かい日が徐々に増え、この便りが皆様のもとに届くころには、桜の季節が到来し、新入園や新入学といったシーズンに入っているのではないのでしょうか。無事にその日を迎えることが出来るように、この機会にまずは手洗いやうがいといった、基本的な感染症対策を徹底しましょう。



今月の小児科だよりは、最近の話題から、『こどもの新型コロナウイルス感染症』についてお話し

します。中国で新型コロナウイルス（以降 COVID-19）感染症を発症した患者 7 万人以上の臨床像に関する論文が、3/18 に NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE に発表されました。10 歳未満の小児例は、全体の 1% 未満と少なかつたとされています。その論文の中から、16 歳未満の小児について発表された内容について要約させていただきます。

1/28 から 2/26 の間に 1391 人の子供に対して PCR 検査が行われて、うち 171 人（12.3%）が陽性となり COVID-19 と診断されました。診断された子供の年齢の中央値は、6.7 歳で 1 歳未満が 31 人（18.1%）、1-5 歳が 40 人（23.4%）、6-10 歳が 58 人（33.9%）、11-15 歳が 42 人（24.6%）でした。また 90% 以上の症例で家族が発症していることがわかりました。

全経過中に 37.5 度以上の発熱を認めたケースは、71 人（41.5%）であり、半数以上の 100 人（58.5%）は発熱していません。よく見られた症状は、咳 83 人（48.5%）、咽頭痛 79 人（46.2%）の順に多く、下痢 15 人（8.8%）や嘔吐 11 人（6.4%）といった消化器症状を認めた人もいました。また、12 人（7.0%）はレントゲンなどで肺炎像を認めたものの、いかなる症状も認めず、27 人（15.8%）は症状も放射線画像上の異常も認めませんでした。

重篤な症状となった 3 人は入院中に ICU 管理のうえ、呼吸器管理が行われました。この 3 人はそれぞれ水腎症、白血病、腸重積といった合併症を持っており、生後 10 か月の腸重積合併例が入院から 4 週間で多臓器不全のため死亡となっています。3/8 の時点で 21 人が状態安定のうえ一般病棟入院中、149 人が退院となっています。

様々な情報がメディア、インターネットなどを通じて伝えられ、暗鬱な気持ちになりそうな毎日ですが、外来に通院されるお子さんたちはみな明るく、いい意味で新型コロナウイルスには興味がなさそうです。こういうときこそプラス思考で、これを良い機会ととらえて、もう一度書きますが、手洗いやうがいといった基本的な感染対策を徹底したいものです。